

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが
あふれだす。



監督:呉美保 主演:吉沢亮 脚本:港岳彦

忍足亞希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん
原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作:五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース:山国秀幸

製作:「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(アンダーライブストリーム/博報堂DYメディアパートナーズ/ギャガ/JR西日本コミュニケーションズ/アイ・ビー・アイ/アミース/河北新報社/東日本放送/シネマトゥームズ)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給:ギャガ GAGA gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく——。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA
GENDA GROUP

*コード：きこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供

親子の物語が、そしてひとりのコードの心の軌跡が、点描のように紡がれていく——。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そこのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、『きこえる世界』と『きこえない世界』を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者的心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亞希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

とっては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”的な日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持て余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが…。



令和7年度 蔵王町ふるさと文化会館事業 町制施行70周年記念事業「映画上映会」
上映作品：ぼくが生きてる、ふたつの世界

令和8年1月25日(日) 午後1時30分開場 午後2時上映開始
(午後3時35分終了予定)

【会場】 蔵王町ふるさと文化会館（ございんホール）多目的ホール 全席自由席

【前売券】 大人（高校生以上）1,200円 【当日券】 大人（高校生以上）1,500円 小・中学生800円

【前売券取扱場所】 蔵王町ふるさと文化会館(刈田郡蔵王町大字円田字西浦5番地)

受付時間：月曜日を除く平日及び土・日・祝日 午前8時30分から午後5時15分まで

【前売券発売日】 令和7年12月10日（水）午前10時から発売開始

【主催】 蔵王町 蔵王町教育委員会 【後援】 社会福祉法人蔵王町社会福祉協議会

【お問合せ】 蔵王町ふるさと文化会館(電話 0224-33-2018 FAX 0224-33-2019 E-mail gozain@town.zao.miyanji.jp)

